

02

うめきたプロジェクト

— 大阪市、大阪府、日本
2005年～

西日本最大都市大阪の再生を担うTOD型大規模都心開発

Key Issue

大阪駅北の都心一等地に位置するうめきたエリアは、250万人/日が乗入れるターミナル拠点に位置する貨物操車場であった。交通拠点機能の強化と都心一等地という立地を最大限生かし関西経済の再生を担う役割が期待された。既存の都市基盤との蓄積等を活かしつつ、風格あり国際的な中枢都市機能集積地の形成を為し、世界市場に挑戦する起業家や技術者が集まるイノベーション拠点の形成が求められた。現在では、空港連絡鉄道、リニア中央新幹線の新設駅からの乗入れも予定され、更なる都市機能の強化が図られている。

Project Approach

世界とつながるイノベーションハブの形成

世界に向けて次代の都市型産業やビジネスを創出、発信するために、多様な分野の研究者、クリエイター、起業家、企業、消費者等が交流できる知的創造拠点「ナレッジキャピタル」と呼ばれるイノベーション拠点を都市開発の先導的機能として導入した。「ナレッジキャピタル」では人々の交流施設、多目的劇場、国際会議対応施設等が展開され、人脈づくりやビジネスプランの事業化等新たな価値創造活動をサポートしている。

(土地利用計画)

本事業は2段階開発が進められている。第1期では、ナレッジキャピタル(1.5ha)を核とした商業施設やオフィス、住居が開発され2013年にまちびらきされている。第2期では、都市公園(4.5ha)を中心とした商業施設やMICE施設等の開発が進められている。
※「提案時点(2018年5月)のイメージパースであり、今後変更の可能性があります。提供者:うめきた第2期開発事業者」



(ナレッジサロン)

起業家、研究者、クリエイターや芸術家等の分野を超えた交流により、新たな価値創造を目指す会員制サロン。コミュニケーションスペースや会議室、ワークスペース、プレゼンラウンジ等の多様な場と、専属のサロンマネージャーによるコーディネート機能が備わっている。
出典:一般社団法人 グランフロント大阪TMO

(ナレッジキャピタル) カフェ等も設置され、カジュアルに人々の交流が生まれるエキシビションスペースが設けられている。
出典:一般社団法人 グランフロント大阪 TMO



Data

面積	約24ha (第1期 約8.6ha、第2期 約9.1ha ※その他面積は都市計画道路として利用)
事業主体	大阪市、大阪府、JR西日本、鉄道・運輸機構、UR都市機構、三菱地所、オリックス不動産、竹中工務店、阪急電鉄等(第1期・第2期) ※UR都市機構は、土地区画整理事業等の基盤整備の実施とあわせて、地権者及び開発全体のコーディネーターとして参加
主な導入施設	商業・業務施設、MICE施設、レジデンス、宿泊施設、都市公園、知的創造拠点

国際コンセプトコンペにて未来の都市デザインを結集

大阪市、地元経済界、国、UR都市機構等が共同してまちづくりを計画していたが、計画段階からの国内外へのプロジェクトアピールが期待され、国際競争力のある世界水準の高度な都市空間の形成が求められた。そのため、全体構想策定に先がけて、広く世界からの意見を求めるために「国際コンセプトコンペ」が実施され、世界52か国より900件を超える提案を受けた。その提案も参考にしつつ、まちづくりの全体構想や基本計画の策定、推進協議会の設立が行われた。その中で、都市計画は2期に分けて実施され、先行開発区域(第1期)として、駅と街区を結ぶ風格と境界性を有する街並み・ストリートが実現された。



To the Next Phase

今後進捗予定の「うめきた2期」事業では、約9.1haの内、約4.5haの大規模な都市公園が整備され、みどりや都市機能と一体化した新たな都市空間の建設が始まっている。ナレッジキャピタルとの連携、開発事業者による運営組織の設置、公園と屋上緑化等の一体的デザインなどが計画されている。また、都市公園の長期的な維持管理を図ることができる収益構造の実現及び実施体制づくりが目指されている。

